



カナダ・アルバータ大学との

学生交流について

北海道大学学術国際部留学生交流室係長

河野 公美

《北大とカナダの大学との関係について》

北海道大学はカナダのエドモントン市に位置するアルバータ大学と大
学間協定を、また、本学経済学研究
科がハミルトン市に位置するマクマ
スター大学マイケル・G・デグロー
テ経営大学と部局間協定を締結して
います。双方の大学等との関係は非
常に良好で、特にアルバータ大学と
は活発な交流が行われています。

《アルバータ大学との交流》

本稿では主に大学間協定大学であ
るアルバータ大学との学生交流につ
いて、本学が展開しているプログラ
ムを中心に紹介したいと思います。

【留学生受入プログラム①】HUS

STEP

HUSTEP（北海道大学短期留
学プログラム）は、本学が協定大学
からの学部留学生を受け入れる目的
で、1997年から実施しているプ
ログラムです。このプログラムは、学
部3年次程度の学生に対し、英語で
授業を提供するもので、北米・アジア
・ヨーロッパ等の大学から40名余り
の学生を受け入れています。午前中
に開講されている日本語の授業も履
修可能で、日本や日本文化に関心を
抱いていても日本語能力が充分でな
い学生達の人気を集めています。プ
ログラム実施期間は約1年間です。

【留学生受入プログラム②】日本語・ 日本文化研修プログラム

日本語・日本文化研修プログラム

（通称「日研（につけん）プログラ
ム」）は、日本語専攻を主とした学
部学生対象のプログラムで、日本語
能力試験3級以上を受け入れの条件
としています。このプログラムの参
加者は、日本語の授業を履修すると
共に後期には学部の専門科目を履修
することができます。プログラム実
施期間は約1年間です。

【留学生受入プログラム③】北海道大 学サマーセッション・プログラム

北海道大学サマーセッション・プ
ログラム（通称「サマー・プログラ
ム」）は、北米の協定大学の学生を
対象に1978年から隔年で実施し
ているプログラムです。平日は毎
日、日本語研修を受講し、華道や水
墨画などの文化活動や日本料理の講



カナダのエドモントン市

習会への参加、小学校訪問を通じて様々な人々との触れ合いを経験します。また、滞在は全期間ホームステイとなっており、日常生活を通じて日本語や日本文化への理解を深められる内容となっています。プログラム実施期間は1カ月です。

アルバータ大学の学生は、前述の3つのプログラムのいずれにも参加しており、特にサマー・プログラムには第4回の1984年から参加しています。アルバータ大学からの参加者は日本語能力が高く、事前準備もしっかりしているため、ホストファミリーの評価も非常に高いものとなっています。

【日本人留学生派遣プログラム】

北海道大学の学生がアルバータ大



カナダの電飾国旗の前に立つ天内さん

学に交換留学（協定大学への学位取得を目的としない留学）する場合には、アルバータ大学が定めたTOEFLスコアを取得しなければなりません。留学後は、本学のような特別プログラムではなく、カナダ人学生と共に学部専門の授業を履修します。授業スタイルも日本と全く違い、慣れるまで苦勞するようです。

【日加戦略的留学生交流促進プログラム】

日加戦略的留学生交流促進プログラムは、日本コンソーシアム協定大学（9大学）とカナダコンソーシアム協定大学（14大学）の学部2〜4年に在籍する学生を相互に交換する学生交流プログラムです。このプログラムに採択されると月8万円の奨学金が支給されます。また、協定大



カナダで留学生仲間とアイスホッケーを楽しむ天内さん

学以外の大学に交換留学と同じ条件で留学できる可能性があります。

ここからは、同プログラムに採択され、昨年9月からアルバータ大学に留学中の天内玄人さん（当時、法学部3年）に街の様子や大学の生活について紹介していただくことにします。

北海道大学法学部 天内 玄人 （アルバータ大学留学中）

I エドモントンについて

はじめまして。僕は北海道大学に在籍する法学部の三年生（留学当時）で、現在カナダのアルバータ州の州都のエドモントンにあるアルバータ大学というところに2008年9月から8カ月間の交換留学中です。まず、はじめにエドモントンとい

う町について簡単な紹介をしたいと思います。

エドモントンはアルバータ州の州都で、アルバータ州はバンクーバーのあるブリティッシュコロンビア州からロッキー山脈を挟んで東側に位置し、アメリカと国境を画する場所にあります。

エドモントンの人口は100万人ほどです。

人口区分としては白人系が多いですが、大学を中心に中国系の移民なども多く、中国、日本などの製品のみを扱ったスーパーも見られます。経済については、オイルサンドから精製される石油産業が盛んで、カナダ（サウジアラビアに次ぐ世界第二番目の石油産油国）の石油の大部分をアルバータ州が産出しており、

イベントでカナダ人夫妻にダンスを習った天内さんら（カナダ）



その大部分はエドモントン近郊から採掘されます。エドモントンのアイスホッケーのチームの名前がエドモントンオイラーズ（Edmonton Oilers）というところからもそのことがうかがえます。また日本に向けての輸出も行われています。中でも特徴的なことは、気候です。内陸に位置するエドモントンは一年を通しての寒暖差が大きく、夏には30度を越すこともあるのと対照的に、冬には



北大サマープログラムで小学校を訪問した留学生たち



北大サマープログラムで日本料理体験



ホストファミリーとの出会い（北大サマープログラム）

氷点下40度になることも珍しくありません。しかし、一年を通して空が晴れ渡ることが多く、都心部であっても地平線が見えるほど空が広大で、息苦しさを感じません。

そうしたことに加えてエドモントンへ来た日本人の多くはエドモントンでの生活がゆつたりしていると感じるようです。確かに、道行く人が何かにおられるようにせせこましく歩くこともなくゆつくり歩いており、スーパーのレジなどでも混雑しているわけでもないのにしばしば行列ができたります。そんな環境の中で生活しているとふと日本でストレスフルな生活を過ごしていたことを忘れてしまいます。エドモントンは都会でありながら田舎のような時間の流れを持つ町だと思います。

Ⅱ アルバータ大学について

次に僕が現在学んでいるアルバータ大学について紹介したいと思います。アルバータ大学はアルバータ州の州立大学で、カナダ五大大学のひとつに数えられており、州都エドモントンの都心部から地下鉄で5分のところに位置し、メインキャンパスは北海道大学と同程度の敷地を有しています。生徒数も3万7000人を数え、世界133カ国からの留学生の数も25000人へのぼり、移民の国と称されるカナダの多民族国家としての一面も見うけられます。

Ⅲ アルバータ大学での授業について

次にアルバータ大学での授業について北海道大学との比較を通して触れていきたいと思います。

まず一つ目は、学内の至る所に無

線LANが整備されているところから、授業形態に大きな違いをもたらしているということです。履修システムに関しては北海道大学でもオンラインで登録ができるようになりましたが、アルバータ大学では履修システムに加えておおよそ授業に関する全てがインターネットを介してなされます。

授業に関しての教授からの告知、大学からの連絡などはすべてメールを通して行われ、掲示板などはなく、また成績開示、授業料に関する手続きも同様で、さらには授業での教材も大学のサイトを通してダウンロードしたり、レポート提出をオンラインで行うこともあります。授業中にもそうした違いは見られ、紙媒体でノートをとるかわりにLaptopを使う生徒も一般的なようです。

もう一つアルバータ大学の授業に関して特徴的なことは、学期のあり方です。学期は秋ターム（9～12月）、冬ターム（1～4月）の2ターム制で、アメリカなどの大学と比べるとやや学習期間が短く、残りの四カ月ほどの期間は、集中講座が行われる春タームや、夏タームに参加しやすそうです。履修するコースの時間割も特徴的で、三つの形態があり、50分×週3回、80分×週2回、180分×週一回のものがあり、それぞれ3単位で1コースとして考え、3～5コースを一つのタームの中でとるのが一般的です。

そしてもう一つ特徴的なことは、レポートやテストなどの課題の課ざれ方です。授業にもよりますが、一般的に中間試験（筆記、あるいはプレゼン）が2回（それぞれfirst midterm、second midterm などと呼ばれます）、それに期末試験あるいはレポートという形式が多く、一カ月おきに定期的に比較的大きな課題が課されます。これを聞くと日本の大学に比べてかなり負担が大きいうように聞こえますが、履修するコース数が少ないことと、英語という母国語でない言語というハンデを考慮に入れる



浴衣で集合した北大サマープログラムの留学生たち

と、量的な比較は難しいと感じます。僕はこの冬チームに5コース受講していますが、北海道大学での90分授業9コマ分（時間数だけで見る）に相当します。科目については、Law 420、NS 211、NS 200、China 202、Japan 322などのをとっています。それぞれの授業がさまざまな特徴を持っており、非常に面白いのですが、中でも面白いのがNS 211、NS 200という授業です。NSというのはNative Studiesの略で、ネイティブスタディーズとは、いわば先住民民族学とも訳されるもので、Faculty of Native Studiesという学部の授業です。Native Studiesという言葉は多くの人にとって聞きなれない言葉だと思いますが、カナダにおいて先住民について学ぶこと

はカナダを語る上で大きな役割を担っていると思います。なぜなら、カナダの先住民について学ぶことは、その歴史のみならず、法的な問題、政治、経済などさまざまな部分を見る必要があるからです。カナダは、その（ヨーロッパ人から見ると）歴史において、フランスとイギリスの植民地争いの中に巻き込まれ、その中で先住民は、その双方の国との間で様々な関係におかれ、当初、毛皮貿易においては対等な関係であったのとは対照的に、時代とともに同化政策の対象としていわば支配される関係におかれてゆき、そしてそうした問題は現代にも残り、法的な身分の問題（Indian ActやBill C31と呼ばれる法律に関わる問題）、土地収用の問題（石油などの資源開発に伴って先住民にとっての重要な意味を持つ土地の破壊、福祉、就職に関する問題などは無視できない存在となっています。授業の中心は、こうしたことをテーマにして、講義が行われるほかに、Metis（メーティ）、Cree、Inuitの人たちを含め様々なバックグラウンドの人たちがデイスカッションやプレゼンテーションを行ったり、Aboriginal Peopleと呼ばれる先住民の方のゲスト

トレクチャーなどがあったり、授業形態は様々です。

IV アルバータ大学を選んだ理由

僕が、こうしたことに興味を持っているのは、カナダでのこうした先住民に関する問題というのが、日本における先住民であるアイヌ民族に関するそれと比べて、非常に新しいものを感じられたからです。自分の苗字から自分の祖先がアイヌ民族に何らかのかかわりがあるのではという小さな好奇心から大学で少しアイヌ民族についての講義を受講するようになり、また法学部での授業を通してカナダでは先住民に関する法的な議論が蓄積しているということを知り、次第に興味を募り、特に土地収用問題や、法的な身分の問題などに興味を持って現在勉強しているところです。そうしたことを通じ、アルバータ大学において幾分か日本におけるアイヌ民族についてクラスで語る場面などもあり、またカナダでの先住民に関する多くのことを学び、それを日本の場合と比較し、カナダの問題を考えると同時に、今後、日本の先住民に関する問題についても理解を深めていきたいと考えています。



仕事一歩先

since 1896



山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1

[営業部] 代表電話 (011) 661-7163 FAX. (011) 661-7173
 東京支店 / 電話 (03) 3518-4631 FAX. (03) 3518-4633
 苫小牧営業所 / 電話 (0144) 34-8078 FAX. (0144) 31-2423
 千歳営業所 / 電話 (0123) 26-3555